



ふるさとだより



2017年

NO.70

久之浜・大久、四倉、平、小名浜、勿来



表紙からMessage

震災を乗り越えた、ふるさとの“今”

あの日から6年。今年も市内各地で行われた追悼行事とともに、まちづくりに取り組む人たちの思いと活動を紹介します。また、地域へのメッセージを綴ったフォトギャラリーも掲載。ふるさとへの想いを詰め込んだ、臨時増刊号です。



小浜海岸での追善供養

CONTENTS

■市内各地の追悼行事

- 市全体、久之浜・大久、小名浜……2
四倉、平（豊間、薄磯）、勿来……3

■地域とともに生きる

- 久之浜・大久……4
四倉……5
平……6
小名浜……7
勿来……8

震災から6年

市内各地の

追悼行事

平成29年いわき市東日本大震災追悼式

【3月11日：いわき芸術文化交流館アリオス】

震災で犠牲になられた方々への追悼式を芸術文化交流館で行いました。震災発生時刻の午後2時46分には、会場に集まつた市民が1分間の黙とうを捧げ、献花も行われました。



湯本高校吹奏楽部による献奏も行われた追悼式の様子



復興への祈りを込めたキャンドル



会場に浮かび上がる「3.11祈」の文字

【3月11日：平中央公園】
第6回
3・11希望の灯り

小名浜地区

【3月11日：江名港】

全国神職有志会

東日本大震災物故者慰靈



おおはらいのことば

大祓詞を読む地域住民



雅楽 「蘭陵王」 の披露

久之浜・大久地区

【3月11日：久之浜防災緑地内】

東日本大震災久之浜・大久地区追悼慰靈・花供養

3月11日、東日本大震災久之浜・大久地区追悼慰靈・花供養が行われました。集まつた住民やボランティアたちが、全国から送られてきた約5,000本の花を手向けました。追悼式典では、小・中学生2名による未来への誓いが述べられた後、地震発生時刻の午後2時46分に参列者全員が黙とうし、鎮魂の祈りを捧げました。



【3月11日】
復興エイサーいわき
久之浜防災緑地において、久之浜・大久自安我楽継承会など「復興エイサーいわき」の参加4団体も供養演舞を奉納しました。



四倉地区

【3月11日：チャイルドハウスふくまる】

ふくまる3.11メモリアル

未来に花を咲かせましょう!

参加者は、千葉県市原市の有志から届いた花を同館周辺に植樹したほか、建物前の広場で献花と黙とうをしました。また市原鼓友会の和太鼓、ウクライナのバンドウーラ奏者カテリーナさんによる演奏などもありました。



キンセンカやカザニアなどを植栽する参加者



市原市からはフラダンスのグループなども来場



勇壮な音色で会場を盛り上げた和太鼓の演奏



日本の童謡などを弾き語りしたカテリーナさん



献花台に花を捧げて手を合わせる参加者



午後2時46分。サイレンに合わせて黙とう

平地区

【3月11日：薄磯】
東日本大震災物故者
慰靈碑落慶法要

薄磯復興本部前で
慰靈碑の落慶法要が
営まれ、関係者による
除幕式が行われました。



【3月11日：薄磯】
東日本大震災物故者
七回忌法要

修徳院で薄磯地区の
七回忌法要が営まれました。
法要の前に慰靈碑の前でじ
ゃんがらやエイサーが披露されました。



【3月11日：豊間】
東日本大震災物故者
七回忌法要

豊間漁港で豊間地区の
七回忌法要が営まれ、地震発生の時
刻に合わせて黙とうをして犠牲者の冥福
を祈りました。



勿来地区

【3月11日：小浜海岸】

なこそ希望プロジェクト2017～6年目の3.11～◆伝統文化で偲ぶ追善供養◆



通路を照らしたキャンドル



「関西からの元気玉」公演



金春流能楽師によるお仕舞



夜空に咲いた「希望の花火」

【3月11日：小浜海岸】
震災復興6周年
夢と感動・勇気と希望を!
「復興祭」小浜心の駅



青空の下、参加者全員で合唱



主催のおぢや元気プロジェクト若林和枝理事長(写真最右)

地域とともに生きる
伝統をつないで
特色あるまちづくりを



久之浜・大久地区
復興対策協議会
初代会長 遠藤 周壽さん



■これから久之浜へ
末続では、4月に伝統の祭りがあります。昔みたいに子ども神輿が見たい。若者が定着する町になって、伝統をつないでいくて、欲しいです。

久之浜・大久地区
復興対策協議会
前会長 吉原 二六さん



公民館の「ふるさと歴史講座」
で講師を務めた遠藤さん

と聞いていた周壽さんの後を受けて、何がどう進むのかもわからないなかで会長になったので、本当に手探りの毎日でした。ただ、一人でやるわけではなくて他の区長や多くの人と一緒にだからこそできたこと。様々な意見の集約や市・県との窓口を復興対策協議会に一本化することで、復興へ向けた町の体制づくりができたと思います。

■これから久之浜へ
若者に戻って来て欲しい。そして、若者と今後を話し合える場が欲しいでいい。若いも若いも一緒に特色あるまちづくりをしていきたいです。



ふれあい館屋上から復興が進む
久之浜町内を眺める吉原さん



区長や各団体の長と復興対策協議会を作り、多くの人が避難していた内郷御廻小学校に集まり、避難解除になつて自宅に戻つても、支所で毎日夜遅くまで会議の連続でした。

■協議会会长として
末続区長として区長会長として大変な時期でした。家は妻に任せきりで、「皆、困っているんだから」と町のことだけに集中して、ほかのことは考えられませんでした。

■2代目会長として
以前から区長を辞める

久之浜・大久地区
復興対策協議会
前会長 吉原 二六さん



公民館の「ふるさと歴史講座」
で講師を務めた遠藤さん

地域とともに生きる
四倉をを目指して

震災前よりも活力ある
四倉を目指して

四倉地区行政嘱託員(区長)
協議会
会長 公平 和俊さん



震災前よりも活力ある
四倉を目指して

海水浴場は、震災後の休止を経て、この6年間に再開しましたが、四倉にかかるイベントを通じて町をPRしていくたいと考えています。

あの未曾有の大震災から6年が過ぎ、いまだに風評被害やインフラ復旧、除染などの課題が残っていて、地区民の安全・安心の確保、一層進む少子高齢化への対応など課題は多岐に渡っています。

区長会が中心になつて実行委員会を組織する四倉ねぶたや花火大会、区長会とOBで安全対策実



ヨツクラムジカヘッズ
代表 佐藤 真一さん

そして震災前よりも活力があり、将来に夢と希望が持てるまちづくり、住み慣れた四倉町に住んで良かったと思えるようなまちづくりを目指しています。

ヨツクラムジカヘッズを立ち上げて、3年目になります。私が住む四倉新町地区が、震災後に住民が引っ越すなどして活気がなくなつたのを見て「何かしなければ」「自分に何ができるのか」と考えるようになり、仲間たちとムジカヘッズを始めました。約15年ぶりに新町ホコ天を復活させたり、昔、町内で親しまれた四倉音頭を再び広める活動などに取り組んでいます。

四倉音頭については、地域の行事で披露する機会をいただく一方で、町内にある仮設住宅で踊り方を教えることで、双葉郡のみなさんと交流するきっかけになればと思っています。

昨年度に引き続き今年度も地域学講座・四倉学講座も開催しましたが、故郷の歴史や文化を勉強しつつ、地域のみなさんの助言をいただきながら、まちづくりに取り組んでいます。

ふるさとへの想い in 四倉

The messages on the cards include:

- Top row: "ことばすっきり、「あいさつはっきり」「あんぜんしっかり」元気と笑顔の四倉小学校長 鈴木洋一"
- Top row: "豊かな自然と大きな笑顔 みりょくいっぱい 大好き四倉 大浦小佐々木俊 根本美香"
- Top row: "地域のみなさんと育む 四倉味来 四倉中 山越裕樹 本田美穂 梁野藍璃"
- Bottom row: "未来を作る 四倉の子供たちの 豊かな心 東三丁目 大庭美絵"
- Bottom row: "道駒再開を望が て、今、四倉町を訪れる駒車に想いをつなぎ..." 道駒ふらはせ 駒車健一
- Bottom row: "震災から6年 進む復興に感謝 上仁井田 小松晃子"
- Bottom right: "みんなの 笑顔あふれる よつくらへ 東三丁目 門馬裕美"

議を重ねていきました。

地域とともに生きる

地域をサポートする
ふるさとを想う若い力

薄磯復興協議委員会

会長 鈴木 勝さん



震災直後は、地元消防団員として救助、捜索活動をしていました。その年の8月頃、薄磯区会から復興協議委員会の立ち上げの打診を受けて10月に薄磯復興協議委員会を発足。協議委員は地元の青年を中心に構成されました。それから、ほぼ毎週日曜日、協議会事務所にメンバーが集まって復興計画を話し合い、区役員と協

震災当日、福島高専の学生で卒業式を控えていた時に塙場の自宅で被災しました。テレビ、ラジオで大津波警報を知りましたが、足腰の弱い祖母を連れ避難する余裕は無く、2階の部屋で海を見る

と津波が堤防を越え、2階ベランダを直撃しました。水位が増し自分の身長でもやっと顔が出せる状況で、祖母を抱えてしぶきました。水が引くと周りの家は無く自宅だけが残りました。幸い2人ともかすり傷程度で、通りかかるつた消防団員に助けられました。

その後専攻科に進み、卒業後は、地元企業に勤め豊間団地に暮らしながら豊間区会のサポートしています。かけがえのないふるさと豊間の街並みや當みが以前のように戻って欲しい。あの大地震や津波のなか、生かされた命なので、無駄にしないよう生きていきます。



ふるさとへの想い in 平

地域とともに生きる
ふれあいを大切に
笑顔あふれる町へ

市公営住宅永崎団地
自治会長 藟谷 鐵雄さん



震災前は小名川の河口部に住んでいましたが、自宅が津波の被害に遭い、借上げ住宅で4年半避難生活を続けていました。平成27年10月に永崎団地が完成してから入居をはじめ、その翌月に自治会が発足しました。会長を引き受けることになり、翌年1月から本格的に活動がスタート。団地内の修繕やボランティア団体によるイベ



江名女性の会
会長 金成 洋子さん

今年はみんなで協力し合ってイベントを開催し、団地内だけでなく近隣住民との交流も図っています。

に昨年11月には、隣り合わせている県営住宅の住民と、初めての合同交流会を実施しました。

団地の受け入れまで、多岐にわたり、本当に忙しい毎日でした。

団地内で住民同士の交流の場が少ないので、きっかけ作りになればと思い、集会所でイベントを積極的に行つてきました。さらに毎月には、隣り合っている県営住宅の住民と、初めての合同交流会を実施しました。

今後はみんなで協力し合つてイベントを開催し、団地内だけでなく近隣住民との交流も図つていきたいと思っています。

江名地区は、震災により甚大な被害を受けましたが、震災を乗り越えたことで、みんなとの絆がより深まり、お互いに助け合う気持ちを改めて考えさせられました。

その繋がりをきっかけに、「女性だけで何か楽しいことをやろうよ」と声が上がり、平成27年4月に江名女性の会が発足しました。

最初の活動は、同年3月に完成したばかりの江名公民館の花植えでした。

それから少しづつ活動が広がり、震災後から毎年行われている小名浜地区の防災サマーキャンプに協力したほか、江名の町再生プロジェクトが主催するイベントにも参加するなど、昨年だけでも16回の活動を行うことができました。

これからも、地区内での花植え活動にずっと力を入れて、みんなで楽しく花でいっぱいの明るい江名の町を目指したいです。

ふるさとへの想い in 小名浜





ZP〇法人勿来あがつゝり
サポートセンター

理事長 館 敬さん

地域ひとかにせいかいの
住みよい勿来を目指す



■発足のやうかたと想い
平成18年の発足当初は「吹風殿」の利活用を推進するために活動していましたが、6年前の震災をきっかけに支援活動を開始し、市災害ボランティアセンターを設立しました。震災直後は避難所で炊き出しなどを行っていましたが、地元に住んでいる私たち

ちだからじれやわぬ、むひと身近な支援活動を続けていくべきだと思つたんです。その年の6月には、ボランティアセンターに代わつて、なゝそ復興プロジェクトを立ち上げました。

■未来を見据えた活動

それから、被災地区の住所録作成や、小浜・岩間・錦須賀地区の3区長会議を開催。2年目には、なゝそ交流スペースをオープンし、岩間や浪江の方々の憩いの場として現在も活用しています。

また、岩間町の防災緑地についても利活用検討委員会を開き、震災記録誌の作成やモニユメント、タイムカプセルの設置を計画しました。同時に、防災緑地に植樹するための苗木とドングリの採取を、岩間・小浜町で年2回実施。県内外の皆様に育てていただき、防災緑地の完

成後、育てた本人に植樹してもらおうと計画しているます。

そのほか、岩間・浪江町サロンの作品展示や、子どもたちによるダンス発表などを含めた「サロン祭り」、震災後からは「なっこ」の憩いの場として現在も活用しています。

また、岩間町の防災緑地についても利活用検討委員会を開き、震災記録誌の作成やモニユメント、

タイムカプセルの設置を計画しました。同時に、防災緑地に植樹するための苗木とドングリの採取を、岩間・小浜町で年2回実施。県内外の皆様に育てていただき、防災緑地の完

成後、育てた本人に植樹してもらおうと計画しているます。

そのほか、岩間・浪江町サロンの作品展示や、子どもたちによるダンス発表などを含めた「サロン祭り」、震災後からは「なっこ」の憩いの場として現在も活用しています。

また、岩間町の防災緑地についても利活用検討委員会を開き、震災記録誌の作成やモニユメント、

タイムカプセルの設置を計画しました。同時に、防

災緑地に植樹するための苗木とドングリの採取を、岩間・小浜町で年2回実施。県内外の皆様に育てていただき、防災緑地の完

成後、育てた本人に植樹してもらおうと計画しているます。



苗木採取イベント前に参加者へあいさつする館さん



みんなの想い in 勿来